



Shonen JET

少年ジェット「希望の翼」 第32回 研修報告書

Shonen Jet "Wings of hope" 32nd Study Abroad Report

January 5 - 13, 2024 Perth, Australia





CONTENTS

01 表紙

02 目次

03 派遣団員名簿 海外研修行程表

04 ～ 31 研修報告

04-07 少年ジェット「希望の翼」の軌跡

08-09 櫻間 太一（札幌第一高等学校2年）

10-11 周田 俊誠（立命館慶祥高等学校2年）

12-13 田上 陽花（栗山高等学校2年）

14-15 橋元 健太朗（札幌南高等学校2年）

16-17 丸山 士道（札幌東高等学校1年）

18-19 水口 優衣（岩見沢緑陵高等学校1年）

20-21 盛川 琴音（栗山高等学校1年）

22-23 腰本 穂依（栗山中学校2年）

24-25 塚本 紗雪（栗山中学校2年）

26-27 山本 美緒（栗山中学校1年）

28-31 フォトギャラリー

32 裏表紙（ロットネスト島）

栗山町では外国でのホームステイ体験や交流を通じて、国際感覚豊かな青少年育成のため、町内の中学生・高校生を海外に派遣する『少年ジェット「希望の翼」』事業を、平成2年（1990年）から実施しています。今回派遣されたのは中学1年生から高校2年生までの10人。派遣団員は9回の事前研修でホームステイの心得や英会話の学習を行い、海外研修に備えてきました。パースでの研修は1人1世帯、4泊5日のホームステイでのホストファミリーとの交流を中心に、英語レッスン、施設見学、班別行動などさまざまな体験をおしてオーストラリアの文化や歴史について学習しました。本書では、第32回少年ジェット「希望の翼」派遣団のオーストラリアでの海外研修を報告します。

派遣団員名簿



海外研修行程表

月 日	場 所	時 間	交通機関	内 容
1日目 令和 6 年 1月5日(金)	総合福祉センター 総合福祉センター発 新千歳空港発 羽田空港発 成田空港発	9:30 10:00 12:30 14:30 19:20	貸切バス NH062 便 貸切バス QF080 便	出発式 出発式終了後・栗山町から新千歳空港へ 新千歳空港から羽田空港へ 羽田空港から成田空港へ 成田空港からメルボルン空港へ
2日目 1月6日(土)	メルボルン空港着 メルボルン空港発 パース	7:45 14:25 16:00	QF773 便	入国手続き メルボルン空港からパース空港へ パース空港からコテスロー・ビーチへ
3日目 1月7日(日)	パース	終日	—	ホストファミリーと対面し、休日と一緒に過ごす
4日目 1月8日(月)	パース	9:30 ～ 17:00	ホスト送迎	オーストラリア文化を学ぶ英語レッスン 「フリーマントル」エリア見学 ホスト宅へ
5日目 1月9日(火)	パース	8:30 ～ 17:00	ホスト送迎 専用車	カバシャムワイルドライフパーク訪問 マーガレットリバーチョコレートファクトリー訪問 モンドナガーファクトリー訪問 ハウスオブハニー訪問 ホスト宅へ
6日目 1月10日(水)	パース	9:00 ～ 19:30	ホスト送迎 専用車	パースミント訪問 パース市内エリア散策・ショッピング キングスパーク訪問・ピクニック ホスト宅へ
7日目 1月11日(木)	パース ロットネスト島	8:30 ～ 19:30	ホスト送迎 専用車	ホストファミリーとお別れ ロットネスト島訪問 夕食後、ホテルへ
8日目 1月12日(金)	移動 パース空港発 シドニー空港発	9:00 11:40 22:05	QF648 便 QF025 便	ホテルからパース空港へ パース空港からシドニー空港へ シドニー空港から羽田空港へ
9日目 1月13日(土)	羽田空港発 新千歳空港発 総合福祉センター	9:55 11:30 13:00	JL509 便 専用バス	搭乗手続き・羽田空港から新千歳空港へ 新千歳空港到着後、栗山町へ 解散式

少年ジェット「希望の翼」の軌跡

2023/07/21	募集開始
2023/08/26、09/01	面接
2023/09/06	派遣団決定
2023/09/27	結団式・説明会
2023/10/03～12/29	事前研修①～⑨
2024/01/05～01/13	本研修
2024/02/05～03/13	事後研修①～③
2024/03/16	国際交流の集い

研修引率者： 栗山町教育委員会 参与 佐藤 裕介
主事 竹内 恒太

◆ 1月5日(金)
いざ出発

9時30分より、総合福祉センター「しゃるる」の中ホールで出発式を行いました。吉田教育長が「覚悟を決めて自らチャレンジし、皆さんの経験をきてください。皆さんが成長して帰ってくることを楽しみにしています。」と激励。団長の盛川琴音は「事前研修で学んだことを活かし、英語や文化についてたくさん学んできます。最高の思い出となるよう派遣団員一丸となり、楽しく臨機応変に充実した9日間にします。この研修の機会をくれた教育委員会や家族、栗山町の皆さんに感謝の気持ちを忘れずに行ってきます。」と決意を述べました。吉田教育長と保護者に見送られ、いざ出発です。



◆ 1月6日(土)
パース到着

成田空港から約10時間かけてメルボルン空港へ。入国審査を済ませた後、パース空港へ向かいました。入国審査では団員の一人にハプニングが!!この後の研修報告で明らかになるので楽しみに。様々な困難を乗り越えパースに到着。現地ガイドのリンダについて行き、外に出ると真っ青な空とまぶしい真夏の太陽がお出迎え。団員達は嬉しさからか、移動の疲れも忘れたようでした。

その後ホテルにチェックインし、コテスロー・ビーチを散策。白い砂と透き通る海に自然と笑顔が溢れていました。



時間は17時を過ぎていましたが、周囲ではピクニックを楽しむ家族、ギターを弾いて歌っている人など、ビーチを楽しんでいる人がたくさんいました。我々もピクニックをしながら夕食にフィッシュ&チップスをいただきました。



◆1月7日(日)

ホストファミリーと対面

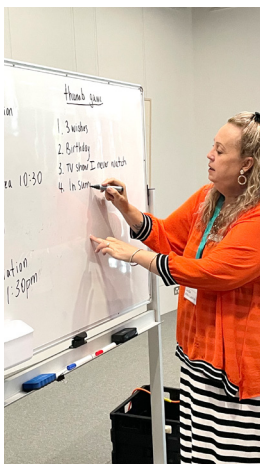
ホテルで朝食を済ませた後、いよいよホストファミリーと対面です。団員達は不安から緊張の様子でした。それぞれのホストファミリーに迎えられ、今日は休日と一緒に過ごします。



◆1月8日(月)

英語レッスン&エリア見学

午前中はリンダによる英語のレッスン。どんな休日を過ごしたか英語で発表しました。バーベキューをしたり、船に乗ったり、ショッピングをしたりなど、それぞれ楽しい休日を過ごしたようです。その後もオーストラリアのスラングや文化を学び、英語のレッスンが終了。



ホストファミリーが用意したサンド

ウィッチやフルーツ、お菓子などが入ったランチを食べて、午後は西オーストラリア州の港町フリーマントルを散策しました。



◆1月9日(火)

カバシャムワイルドライフパーク

今日からホストバディと一緒に行動します。バスに揺られながら「スポーツ!」と大きな声が黄色い車を見つけて遊びだそうです。年齢の近いホストバディとも仲良くなっていて引率の二人は安心しました。



カバシャムワイルドライフパーク

はコアラ、カンガルー、ウォンバット、クオッカなどオーストラリアを代表する固有種や200種類以上の動物と出会うことのできる動物園で、リンダやホストバディの案内でカンガルーに餌をあげたり、コアラと一緒に写真を撮ったり、団員達は動物園を楽しみました。



ランチを食べた



後は、マーガレット・トコロート・カンパニー、モンド・ヌガー・ファクトリー、ハウスオブ・ハニーなどパースを代表するお店で

ショッピングを楽しみました。

◆1月10日(水)

パースミント・キングスパーク

今日もバディと一緒に行動します。オーストラリアで最も歴史のある造幣局・パースミントに訪問し、歴史について学びながら施設内を見学できるツアーに参加しました。展示されている世界最大の金貨は重量が1トンもある



パースミントでランチを食べた後はパース市内でショッピングや観光を楽しみました。英語でのコミュニケーションにも慣れてきたのか、一緒に指笛を練習したり、ホストバディに日本

り、その価値なんと5千万ドル以上(日本円で約50億円)もあるそうで、カンガルーの模様が施されています。金の延べ棒作りの実演会にも参加し、みんな興味津々でした。



語を教えたり、しっかりとコミュニケーションが取れていました。何よりみんな仲良く楽しそうです。



その後バスで移動し、キングスパークを訪問。敷地約400ヘクタールもある自然豊かな公園で、オーストラリア固有の319種類の植物と80種類の鳥がいるそうです。「世界一美しい街」であるここパースの街を一望できることも魅力で、地元の人たちもたくさん訪れていました。オーストラリアン(アボリジニ)の方にアボリジニの文化、植物について学びながら、広大なキングスパークを見学しました。



夕食はホストファミリーが集まって、それぞれの家庭で用意したオーストラリアならではの料理を持ち寄り、

公園内にある州立戦争記念碑の前でピクニックをしました。大夕食会です。



団員達は食事を楽しみながらホストバディとボールで遊んだり、英会話を楽しんでいたりと、終始笑顔が溢れていました。「な

んてすばらしい時間を過ごしているんだろう」と思いました。団員達もそう思っていたに違いありません。本当に素敵な空間で、一生忘れない時間を過ごしたのではないかと思います。そんな時間ももうすぐ終わり。明日はホストファミリーとお別れです。



◆1月11日(木)

お別れ・そしてロットネスト島へ

4泊5日、一緒に過ごしたホストファミリーとお別れの時です。みんなで集合写真を撮り、団員から英語で書いた手紙を渡します。抱き合って別れ

を惜しむ人、寂しくて涙を流す人、握手をしてまた会うことを約束している人、それぞれの思いが溢れている瞬間でした。本当にかげがえのない時間を過ごしていたのでしょうか。また会う日まで「We meet again..」



その後、高速船に乗って観光地のロットネスト島に行きました。船の中ではホストバディとSNSで連絡を取り合ったり、ホストファミリーとの思い出話をしていました。30分ほどで島に到着。レンタサイクルでビーチを回ります。気温は35度を記録。暑い!!でも湿度が低いので不思議と汗は出ません。透き通った綺麗なビーチ、雲ひとつない青空に囲まれ、団員達も大はしゃぎ!思う存分楽しめました。また、世界一幸せな幻の動物と言わ



れている「クオツカ」にも出会うことができました。



楽しい時間もあっという間で16時30分発の高速船でフリーマントルに戻ります。

夕食はフリーマントルエリアにある「GRILL'D」というお店で美味しいハンバーガーを食べました。「ヘルシーなハンバーガーだよ」とリンダに言われましたが、大きくて食べ応えのあるハンバーガーでした。その後は少し時間があつたので近くのゲームセンターで遊びました。現金は使用できず、専用のカードにチャージしないと遊べません。マリオカート、UFOキャッチャー、エアホッケーなど、日本にあるものもありました。明日はパースとお別れです。ホテルにチェックインした後、一つの部屋に集まり、お世話になったリンダに手紙を書きました。



◆1月12日(金)

See You、オーストラリア

ホテルで朝食を済ませ、お土産でパンになったキャリーケースを持ち空港へ向かいました。団員達からは「帰りたくない」「本当に楽しかった」「また来たい」常にこんな声が聞こえていました。11時40分発のシドニー行き便に乗ります。リンダが搭乗口まで見送ってくれました。さよならするときにお礼を伝えて手紙を渡しました。ありがとうございました。リンダ、ありがとう。パース、また会う日まで。



無事に飛行機は飛び立ちシドニー空港に到着しました。搭乗手続きも慣れたものです。出発まで少し時間があつたので空港内で各々お土産を買ったり、食事を取ったりして過ごしました。

22時5分、出発の時間になり、いよいよオーストラリアともさよなら。

たくさんの方の優しさや温かさ、少年ジェット研修を経験した人にかわらないであろうたくさんの方の感情と、感謝の気持ちを持って日本に帰ります。

◆1月13日(土)

ただいま、栗山町

5時55分、羽田空港に到着。乗り継ぎ便の出発まで時間があつたので外のデッキに向かいました。東京だけ寒い!!日本に帰ってきたと実感した瞬間でした。国際線から国内線へ移動し9時55分、新千歳空港へ向かいました。11時30分、

新千歳空港に到着。栗山交通の赤いバスに乗って栗山町へ帰ります。9日ぶりに北海道へ降り立ち、真っ白な雪景色を見て故郷に帰ってきたんだなど全員が感じました。



13時に総合福祉センター「しやるる」に到着。解散式では「苦労した中で言いたいことが伝わった喜びを感じた」「食文化や伝統など、日本とは違った文化を知れて良かった」など一人ひとりが感想を述べ、最後に副団長の櫻間太一が代表し「団員たち全員が無事に帰国することができて良かったです。難しい英語やコミュニケーションなど試練もありましたが、海外の文化を学ぶ貴重な機会になりました。」と少したくましくなった顔つきで感想を述べました。その言葉は嘘偽りなく、たくさんさんの試練に臆することなくチャレンジし、新たな発見や気づきがたくさんあったと思います。

最後に団員から家族へ感謝の手紙を渡し、解散式が終了しました。





「Another Sky」

札幌第一高等学校2年 櫻間 太一

「自分がまだ知らないことをもっと知りたい」それが私が今回の研修に参加した最大の理由です。私は幼いころから好奇心旺盛な子どもだったので、少年ジェットの取り組みを知った時には、「これは大チャンスだ」と思い、すぐに応募しました。去年はメンバーには選ばれませんでした。今年は無事に選ばれてオーストラリアで学ぶ機会を得ることができました。次の応募まで1年の期間があったので、私は現地で達成したい目標や学びたいことを明確にして整理し、そのために何が必要かをじっくりと考え、実行することができました。

目標は最低目標、中間目標、最高目標の3段階に分けて立てました。最低目標は自分から話しかけること、相手が話している内容が分からなくなったらすぐに聞くこと、中間目標は現地の動植物の名前や日本であるところの訛りを知ること、最高目標は現地で友達を作ることになりました。私は何よりもまず、相手の話していることが分からなければいけないと思い、リスニングからオーストラリアへ行く準備を始めました。

研修メンバーを発表する結団式では、中学校の時の知り合いもいましたが、半分のメンバーは初めて会う人で、ワンチームとしてまとまって研修に参加できるかどうか不安でした。なので、事前研修の時に積極的にメンバーとコミュニケーションをとることを意識しました。またA L Tのテッサとハナと楽しく英語の勉強しているうちに、だんだん距離が縮まっていき、コーラ環境ハウスでの合宿で一気に仲良くなることができましたと思います。

出発当日は、出発式の団長のあいさつで全員の士気が高まり、最高の状態でオーストラリアへ立つことができました。これは研修をより充実したものにする上でとても良かったと思います。

パースまでの道のりは、乗り換えや10時間を超えるフライトで決して楽なものではありませんでした。日本まではISAのスタッフがいきましたが、それも成田までで、そこからは自分たちで手続きなどのもろの事をしなければいけませんでした。海外への旅に慣れていない私たちが英語しか聞こえてこない環境で手荷物を預け、入国審査を通過するのはまさに「試験」ともいえるほどハードルが高いものでした。しかし、そんな試験も事前研修の時から培ってきたチームワークで何とか乗り切り、無事パースへと到着しました。

空港を出ると北海道の凍える寒さと対照的なカラッとした暑さにオーストラリアに来了ことを実感しました。私たちはまず、現地ガイドのリンダと一緒にコテスロー・ビーチに行きました。そこでは大勢の人が海水浴やピクニックなどを



楽しんでいました。みんな
でインド洋に沈む夕日を見
ながら食べたフィッシュ&
チップスは絶品でした。

パースに着いて2日目か
らホームステイが始まりま
した。私のホストファミリー
は父クレイグ、母アストリッ
ド、長男ヘンリー、次男オ
リバー、犬のレイズリーの家
族でした。特に私とオリバー
はパースに行く前からイン
スタグラムでやり取りをし
ていて、オリバーのことを
オリーとニックネームで呼
び、私のことをタイと呼ん
でくれる仲でしたが、さす
がに初めて顔を合わせたと
きはとても緊張しました。

その後は、パースの中心
街をオリーが所属している
バレーボールチームのこと
やクレイグが好きな柔道の
話をしながら少し歩きまし
た。ベルタワーの前で写真
を撮って、スワンリバーを
ボートで渡って家に帰りま
した。

家でお昼ごはんはアスト
リッドが作ってくれたタコ
スを食べ、少し昼寝をした
後、私はホストファミリー

と話すのが少し怖くなりま
した。「全然言葉が出てこ
ない」私は完璧な英語を話そ
うとするあまり、普段は絶
対にしない、頭の中で完璧
な文を作ってから話すとい
うことをやっていたのです。
そんな状況から私を救って
くれたのは出川哲朗の「出
川イングリッシュ」でした。
彼の英語はめちゃくちゃで
すが実際、結構通じてしま
います。それは自分の英語
を伝えようとがちがちに力
んでいた私から重荷をおろ
してくれただけでなく、同
時に勇気を与えてくれました
。「ああ、完璧にしゃべれ
なくてもいいじゃん」と。
そう思ったときオリーがお
菓子をもらって面白い物に誘
いに来てくれました。そこか
ら私は恐れることなく積極
的にコミュニケーションをと
れるようになりました。

プチホームシックを乗り
越えた私はヘンリーとクレ
イグとオリーとで近くの公
園に行きクリケットをし
ました。初めてでしたがな
かなか上手くできました。
その後はビーチに行つて

少し泳いで夕飯に現地でも
有名なポテトフライの上に大
きな鶏肉を乗せたチキンパ
ルミジャーナを食べました。

家に帰ってからはクレイ
グのもう一つの趣味である
チェスをしました。チェス
は初めてでしたが、ヘンリー
が動かし方を教えてくれま
した。勝つことはできませ
んでしたが、なかなか筋が
いいとほめてくれました。

3日目はアストリッドの
誕生日でホームパーティー
があり、たくさんホスト
ファミリーの知り合いが来
て大盛り上がりでした。ヘ
ンリーとオリーの友達も来
ていて日本との違いを感じ
ました。パーティーでは話
す人がいなくて孤立しか
けたり、頑張つて彼らのマ
シンガントークにもついて
いきました。

3〜5日目は、勉強会や
動物園、チョコレートファ
クトリーなどたくさん場
所に行きました。特に4日
目と5日目はオリーや他の
メンバーのホストシスター、
ブラザーと一緒に研修に参

加しました。その時に健太
朗と俊誠のホストブラザー
とたくさん話すことができ
て、友達にもなれました。

移動中はバスでかかつて
いる歌をオリーと一緒に
歌ったり、珍しいものがあ
つたら聞いて教えてもらつた
り、単語の正しい発音を教
えてもらったり、オースト
ラリアの知識を高めるいい
機会になりました。また、
逆に私がオリーに日本語を
教えたりするなど、研修を
とても濃い有意義な時間に
することができました。

パースで過ごした6日間
はあっという間でしたが、
自分で立てた目標は全て達
成することができ、オース
トラリアに行つて体験し
たり話を聞いたりしないと
知れないたくさん「まだ
知らないこと」を知ること
ができました。

私を暖かく迎え入れてく
れたホストファミリーには
本当に感謝しています。今
回学んだことを忘れずに、
これからも自分の人生を一
歩ずつ踏みしめながら歩
いていきたいと思っています。



9 少年ジェット「希望の翼」





「かけがえのない体験」

立命館慶祥高等学校2年 周田 俊誠

2024年が始まってまだ1月5日、僕たちはオーストラリアに旅立ちました。この研修は1月13日までの9日間の日程で行いました。この研修に至るまで事前研修を重ね、ALTの先生、研修に行く仲間と共に基本的な英語の知識から実践的な英語フレーズを学び、確かな自信と信頼関係を築き現地向かうことができました。僕がこの研修に参加した理由は2つあります。

1つ目は海外に行くことのできる貴重なチャンスであったからです。コロナウイルスの影響で行動が制限されていたなか、挑戦できるチャンスがあるのなら逃したくないと思いチャレンジしました。

2つ目は現地でしか経験できないネイティブな会話、価値観の違いを体験してみたかったからです。

待ちに待った本研修1日目は栗山町で結団式を行った後、新千歳、羽田、成田、メルボルン、パースと全て移動時間で体力的にもしんどかったです。機内泊を過ごし2日目、長い機内時間を終えとうとうメル

ボルンへ到着しました。

まず日本とは違う空気感に驚きました。僕は今まで東南アジアに行ったことがあり、海外に行くとは海外独特な匂いと湿度を経験していました。やはりオーストラリアも独特な匂いとともにカラッと乾燥した空気を感じそこでオーストラリアに来たのだなと心が躍りました。メルボルンで昼食を探しているとき桜間君が現地の方に話しかけコミュニケーションを取っている姿に自分も感化されこの研修の目的を改めて心に留め自分の意思を固めました。

メルボルンから飛行機に乗り今回の研修の目的地であるパースに到着しました。僕は研修に対する興奮と不安が同時に押し寄せました。パースに着いてからは研修の間お世話になるガイドのリンダと合流しビーチに向かいました。

海岸沿いを歩き、美しい夕焼けを眺めながら食べるフィッシュ&チップスは絶品でした。ホテルではホストファミリーとうまくコミュニケーションを取れるのか生活になじめるのか不安と緊張を感じながら朝を迎えました。

いよいよホストファミリーとの生活を送る3日目〜7日目、ホテルのロビーでは緊張からか異様な雰囲気の流れていました。続々とホストファミリーがくる中、ついに今回お世話になるホストファミリーと対面。ホストファミリーは緊張している僕にとっても優しく丁寧に声をかけてくれました。僕は今まで抱えていた不安と緊張が一気に吹き飛びおぼつかない英語ではあったものの初めからたくさんコミュニケーションを取ることができました。改めて快く受け入れてくれたホストファミリーには感謝でいっぱいです。

ホストファミリーの家に到着し日本とは違う街並み、家の外観、内装すべてに感心しました。分かっているにも土足で家に入るのには驚きと抵抗がありました。家に入りまず犬



のフランクキーが飛びついて出て来てくれ、ホストブラザーのロイドが家の紹介をしてくれました。

その後ホストファミリーと共に昼食を食べ、パースの街をめぐりマーケットでカンガルージャーキーを食べたり、スパーに行ったり、ホストファミリーの趣味である船に乗せてもらい初めから夢のような体験をさせてもらいました。

家に戻りロイドとコミュニケーションを取りながらひと段落していると僕の楽しみにしていたディナータイムが来ました。ホストファミリーは「Very Australian」と料理の説明をしてくれ食事中の質問も分かりやすく、僕の英語も一生懸命聞いてくれてまるで家族の一員のように扱ってくれました。豪快なお肉と新鮮なサラダ、ホストファミリーの優しさは僕の心とお腹を満たしてくれました。

次の日、英語のレッスンをしました。自己紹介から始まり、オーストラリア\$の数え方、オーストラリアスラング、英語の発音などを学びました。特にスラングの授業では見

当もつかない英単語がありとても勉強になりました。ホストファミリーと会話をするにつれて現地の英語にも徐々に慣れていき、とても嬉しかったのを覚えています。

次の日ホストブラザーと共にカバシャムワイルドライフパークに行きました。オーストラリア特有の動物が見られるので心が躍りました。まず羊の毛刈りショーと牛の乳絞りを体験し、様々な動物を見て回りました。メインであるウオンバットはとても興奮しました。自分が思っているよりも体が大きくコロンとしており一緒に写真撮影をして少し不細工なところが萌えました。カンガルーエリアに行き餌をあげたり、自由に触れられるところに驚きました。また、コアラも初めて見ることで感動しました。実際に見ることでしか得られないものを肌でたくさん感じることでできました。

カバシャムワイルドライフパークを後にチョコレート工場、はちみつ工場、アボリジニの道を訪れお土産などを買いました。

次の日もホストブラザーと共にパースミントとキングスパークに行きました。パースミントでは実際に金を作る様子や金塊を見たり触ったりすることができました。この日研修で一番印象に残っているキングスパークにいきました。そこでは主にアボリジニの文化を学びました。実際にアボリジニの方の説明を聞きながら道具を触ったり動植物を教えてもらったり草笛をみなでふいたり楽しい思い出がたくさんあります。

夜ご飯では各ホストファミリーが集まってピクニックをしました。オーストラリアの美しい景色と美味しいご飯を食べながらホストファミリーに思い出を語り、自分のホストブラザーだけでなく仲間のホストブラザーとも会話を交わしたり、バレーボールで遊び本当に笑顔が絶えない幸せな時間でした。

いよいよホストファミリーとの最終日お別れの時間が来てしまいい感謝の気持ちと寂しい気持ちがかみ上げてきました。お手紙を書きホストファミリーとハグをしてたくさん

の感謝の気持ちを伝えお別れをしました。

オーストラリア最後のイベントロットネスト島に向かいました。船に揺られ島に到着し自転車をこぎながら島を回りました。島では4つのビーチに行き、たくさんみなではしゃぎ美しい景色を見たり、島特有の動物であるクオッカも見ることができました。これでオーストラリアでのアクティビティをすべて終え、8日目、9日目は移動し栗山に帰ってきました。

僕はこのオーストラリアでたくさんのことを学び経験しました。食事、生活、環境、文化、言語すべてが日本とは異なっており新鮮なことばかりでした。チャレンジすることや様々な文化や人種、価値観を受け入れること学べるものがたくさんありました。百聞は一見に如かずの通り僕の経験したことは一生忘れることなく今後の人生に生かしていきたいです。この研修に関わっていただいた皆さんに感謝の気持ちでいっぱいですが、ありがとうございました。



少年ジェット「希望の翼」



「オーストラリアでの経験」

栗山高等学校2年 田上 陽花

私が今回少年ジェットに応募した理由は、小さい頃から海外へ行ってみたいという海外への憧れからでした。海外ではどのようなものを食べ、どのような植物や動物がいるのだろうか？日本との違いはどんなところだろう？と小さな頃から様々な疑問がありました。

少年ジェットという活動自体は以前から知っていて、少年ジェットに参加したいなとは思っていたのですが、私は英語を話すことも書くことも苦手です。そのため、本当に海外に行けるのだろうか？海外に行つて会話ができるのだろうか？などと心配をしてしまい、なかなか行動に出ることが出来ずにいました。しかし、今年はもう高校2年生で、来年は3年生になるので受験のことで忙しくなってしまうと思い、この機会を逃せば一生後悔する事になるし、挑戦して英語力も伸ばしたいと思い応募をしました。

少年ジェットに応募できる最後の機会だったので合格通知が来た時はものすごく

嬉しかったです。

私はオーストラリアでの目標として「英語力の向上、動物や植物の違い、日本と海外の違い」などを挙げました。英語力の向上では、「英語が苦手だから、間違えてしまふのは嫌だから、英語が理解できないから」などとやる前から恐れずに英語が苦手でも、積極的にジェスチャーなどでコミュニケーションを取ってみてとりあえず自分が知っている単語を繋げて話してみようと思い目標のひとつに設定しました。

植物や動物の違いを知るといふ目標は北海道と違う気候のオーストラリアではどのような動物があつてどのような動物がいるのだろうかというのが以前から気になつていたので設定しました。実際、オーストラリアの空港に着いた時に外を見て、北海道と生えている植物が違うのを見た時はとても感動しました。

事前研修では団員のみんなと英語でゲームをしたり自己紹介をしました。ALTのテッサ先生とハナ先生

が楽しく授業をしてくれて分かりやすかつたし、団員のみんなとコミュニケーションをとれて仲良くなれたのでとても良かったです。

オーストラリアへのお土産作りでは風鈴を作りました。初めて作つたので難しかったですが、ホストファミリーに渡した時に凄く喜んで作つて良かったなと思いました。コカコーラ環境ハウスではテッサ先生とハナ先生と英語のレッスンをした後、団旗を作成しました。

英語レッスンではお題を英語で説明して何がお題なのかを当てるゲームと海外



に行った時のシチュエーションを練習しました。海外に行った時のシチュエーションを練習してみても、英語でなんて言えればいいかわからないなと思っててもテッサ先生やハナ先生は優しく教えてくれて、すごく勉強になりました。

団旗はみんなで構図やデザインを決めて、何とか下書きまでは書くことが出来ました。デザインを決める時に自分では思いつかないようなアイデアをみんなが出てくれて面白かったです。

自分は団旗のイラストデザインを主に担当して結構大変でしたが、ここをこうしたらどう？などと話し合い、前よりも会話が増えてより仲を深めることが出来ました。そして、その後の事前研修で色塗りを終わらせ無事に団旗を作成出来ました。

いよいよオーストラリアに向けて栗山から出発し、成田からメルボルンまで10時間程飛行機に乗りました。こんなに長時間座るのは初めてで、とても疲れました。飛行機ではほぼ寝られず、外

を見ても真っ暗で、ほとんどは海の上を飛んでいたのでも陸も何も見えませんでした。ですがふと上を見てみると沢山の星が見られました。周りに光がなかったのでもハッキリ綺麗に見えました。

そして、1番驚いたのは月の形が明らかに日本で見ていたものとは違い、北半球とは逆向きでした。調べてみると位置関係的に北半球と南半球では見え方が逆になるらしく、日本では見れないような光景を見れてとても面白かったです。

オーストラリアは入国審査が厳しいと聞いていたのですがメルボルンに着いて荷物チェックをされる時はとても不安でしたが、すぐに終わったので驚きました。荷物を預けられないというトラブルもありましたが何とかあったので良かったです。そして、飛行機で4時間かけてメルボルンからパースへ向かいました。オーストラリア内を移動するのに飛行機を使っても4時間かかるのにはオーストラリア

の大きさを実感しました。空からオーストラリアをみると畑の形も日本とは違う円形で面白かったです。

パース初日ではコテスロビービーチで夕食にフィッシュ&チップスを食べました。海辺なのでカモメが沢山いましたが他にも日本では見れないようなカラフルな鳥が普通に飛んでいてビックリしました。海も北海道の海とは違い、白い砂浜に綺麗な青い海で感動しました。サンセットは人生で見た中で1番綺麗でした。

ホストファミリーと過ごすのは緊張しました。初めは2人組でひとつの家に滞在すると思っていたのですが、今年は一人一人違う家庭での滞在になると聞いて不安でした。ですが、失敗を恐れずにポジティブな気持ちで自分からも少しずつ話すようにしました。すると、ホストファミリーもとても優しく私が分からない時はゆっくりと話してくれて少しずつコミュニケーションが取れるようになりました。ホストファミリーとの会

話も最初は聞き取れない事が多かったですが、最後の方になるとほとんど聞き取れるようになっていて自分の成長を感じました。

2人で滞在していたらホストファミリーとの会話が減ってしまったとも思うので、一人一人で滞在できて本当に良かったと思います。ですが、あまりホストファミリーと写真を撮れなかったのもっと撮っておけば良かったなと思います。

日本に帰ってきて変わったところは前よりももっと英語に興味湧いたところだと思います。以前は英語は難しくて大変なものだと思っていましたが、コミュニケーションを取ってみると意外と伝わってとても楽しかったので、もっと自分から言葉を話してみたいと思うようになりました。

もし、少年ジェットに行こうか迷っている人は英語の上手い下手に関わらず、ぜひ挑戦して欲しいと思います！





「少年ジェットで広がった世界」

札幌南高等学校2年 橋元 健太郎

私は高校生になってから、色々なことに挑戦したいと考えるようになりました。この少年ジェットも、「なんでもいいから挑戦してみよう」という気持ちが一番強かったです。また、コミュニケーション能力も鍛えたと思うのも理由の一つです。もともと私はあまり積極的な人と話せる性格ではなく、自分自身のコミュニケーション能力にも満足していませんでした。少年ジェットを通して、それを改善するきっかけをつかめればと思います。参加しました。これらが私が少年ジェットに参加しようと思った理由です。

私が少年ジェットに参加するうえで掲げた目標は「知らない人とコミュニケーションを取ることを恐れず、たくさんの方に挑戦して失敗を重ね、自分自身の成長につなげる。」でした。ここで特に大切にしたのは「失敗を重ねる」ということです。自分自身、今まで失敗はおろか、挑戦することすら避けて成長してきました。い、そのような自分を変えたい、という意味も込めて目標を設定しました。実際、パースでの本研修では、ホストファミリーや店であった人たちとの会話、観光地での研修時には他の人たちのホストブラザーとも会話をし、今までよりもかなり積極的に行動できたと思っています。

また、事前研修では、英語表現の学習も大切にしましたが、特に大切にしたのは、先程述べたコミュニケーション能力の向上を目指して頑張ったのと、海外に研修に行く上で団員との交流は最も大切なものだと考えたためです。結果、事前研修や宿泊研修を通して団員や引率の方とも仲良くなれました。そして、私たちはそれぞれが前向きに努力し、個人目標を本研修で達成して日本に帰ってくることを目指し、クラーク博士の有名な言葉「Be Ambitious」を借りて「Be Ambitious」というスローガンを掲げました。



&チップスを食べたのですが、サイズが海外仕様でお腹がすぐいっぱいになってしまいました。また、夜に近くの店にみんなで買い物に行ったのですが、2リットルジュースなのに注ぎやすい形になってなく、一人で飲む用だと気づいて驚きました。

3日目にパースでの初めての朝を迎え、ホテルにてついにホストファミリーと対面しました。ホストファミリーとの対面前はかなり緊張していたのですが、ホストマザーとホストブラザーのヘンリーとジョージが迎えに来てくれ、とてもフレンドリーに接してくれたのですぐに緊張は解けた。

この日は休日で、夜にホストファミリーの親戚たちが集まってBBQをする予定だったので、対面後すぐにショッピングに行きました。大量にものを買ったあと、BBQの準備をしました。20人近くの親戚が集まり、英語だらけですごく苦労しました。しかし、どの

方も優しく接してくれたおかげでBBQを全力で楽しめました。

4日目、午前中は、英語レッスンを受けたあと、フリーマントルエリアを散策しました。ここでは、高速で回る観覧車に乗ったり、ベイザースビーチに行きました。他にもいくつか回りましたが、本当にきれいな街でここにずっと居たいと思うほどでした。みんなとの散策後は、ジョージと釣りに行ったり、海の見える店でサンセットを見ながら夜ご飯を食べたり、バスケットの体育館にいつてバスケットをしたりと、たくさんの経験をさせてもらいました。特に印象深いのは、バスケット専用の体育館があることで、バスケットは日本よりもメジャーなスポーツだと実感しました。

5日目、6日目は団員やそのバディたちとカバチャムワイルドライフパークやチョコレートファクトリー、パースミントやキングス・パークに行きました。コアラやヘビに触ったり、カン

ガルーに餌をあげたり、アボリジニの文化を学んだりと色々な経験をしました。

たくさんさんの観光地を回れたことはとても嬉しかったですが、それよりも、このアクティビティを通して他のみんなのバディとも仲良くなれたことが一番嬉しかったです。この経験のおかげで、文化も人種も違う友達をつくるのがこんなにも嬉しいことだと気づき、もっと海外にいつてコミュニケーションを広げたいと思うようになりました。

本研修を終えて、私はたくさん成長できたと思っています。自分から知らない人に声をかけに行ったり、ホストファミリーに自分から話題を振ったり、積極的に「〜したい」という許可を求めることができるようになったりと、受け身ばかりだった自分が変わったことを実感しました。たくさんさんの失敗もしながら経験を積み重ねたおかげで、出発前に自分自身が掲げた目標もほとんど達成することができました。

この少年ジェットスの研修ではお互いの文化を知ることとで心から仲良くなれること、そして相手に寄り添うことがコミュニケーションでは最も大切であるということを学びました。この学びを日本でのコミュニケーションに活かしたり、海外に行くときには、相手の国の文化、言語を勉強するなどの準備をしっかり行おうと思いました。

最後になりますが、私はこの少年ジェットスに参加しようと思ったことは、人生で一番の選択だったと思っています。少年ジェットスのおかげで自分自身の視野、世界が大きく広がり、自分自身も変わりました(肌の色も)。少年ジェットスへの参加を迷っている人は絶対参加したほうがいいと思います!!心配なことは意外とどうにでもなります。その壁を乗り越えていくことが必ず成長に繋がります。

たくさんさんの人の支えのおかげで少年ジェットスに参加することができました。本当にありがとうございました!



15 少年ジェットス『希望の翼』





「異文化に触れて」

札幌東高等学校1年 丸山 士道

今回の研修に参加しようと考えたのは日本では感じることのできない異文化に触れ、視野を広げたかったからです。

初めての海外、日本語が通じないと言う環境に少し不安もありました。しかし、実際に研修が始まると不安よりも感動や興味が勝り、毎日楽しく研修ができたと思います。団員との事前研修では、みんな緊張などから固くなっていましたが、本研修では表情も緩み、楽しく研修に参加できたと思います。

出発式を終え家族と別れ、新千歳空港から羽田空港へ向かいました。その後成田国際空港へ向かい、メルボルン空港へ約10時間かけて行きました。長いフライトの後着いたオーストラリアはそれまであった疲れや不安をかき消すような場所でした。全てが新鮮で刺激的でした。

その後、メルボルン空港からパースへと向かいました。パースでは街中を歩いたり観光地を巡るなど数多

くの経験ができました。ただ歩くだけでも見たことのない動植物が見れて楽しむことが出来ました。また、コンビニやスーパーで日本のものを見つけたのもなぜか嬉しく、不思議な感覚でした。

オーストラリアでの初日はオーストラリアのカラーツとしている気候や特有の動植物を楽しむことが出来ました。特にオーストラリアの鳥が面白く、カラフルで鳴き声も変わっていました。

オーストラリア2日目は私が思う最も自分を成長させてくれた経験であるホームステイ初日でした。ホームステイ先でホストファミリーは私に多くの経験をさせてくれました。

ホストファミリーはマザー、ファザー、ブラザー、シスターと犬が1匹という構成で全員面白く、良かったです。またそれぞれ好きなことがあり、それを共有することができ、それが深まり、自分自身楽しい経験が出来ました。特にファザーは車の趣味があり、車の映像や



改造させた箇所を見せてもらったり、実際に乗せてもらったりと楽しい思い出になりました。

また家族全員が共通して日本のアニメが好きということとアニメについて話したり、おすすめのアニメを教えあったりしました。日本の文化が世界的に人気があると感じ、嬉しく思いました。

ホストファミリーと合流して初日は日中にバーガーキングや本格的なゴーカートができる所、夜にパースの夜景が一望できる観覧車に連れて行ってもらいました。ハンバーガーは大きく、ポテトの量も多くて食べるのに時間がかかってしまいました。また、観覧車はスピードが速く、1回で何周もするという日本とは少し違うスタイルでした。

次の日はホストファミリーの元を離れ、講師とオーストラリアのお金やスラングについて学んだ後パースの街を歩きました。その時にお弁当を食べたのですがサンドウィッチの他はお菓

子。ゼリー、林檎丸ごと1つという日本とは異なるもので驚きました。またその後歩いたパースの街は「オーストラリア料理」というお店がなく、歴史を感じるものが出来ました。

その後の2日間はホストファミリーたちと動物園、実際に作っているところが見えるチョコレートやヌガーの工場、いろいろな種類の花の蜜でハチミツを売っているところでお土産を購入したり、造幣局で巨大な金貨や鉱石を見たり、金の延べ棒を作るところを見学したりしました。動物園では絶対に見たいと思っていたリトルペンギンをはじめとした動物たちを見ることができ、大満足でした。

またオーストラリアの日という休日の予定を前倒ししてもらい、ホストファミリーとその親戚が集まってBBQをして肉を焼いたりゲームをしたりしました。

オーストラリア滞在最終日はロットネスト島へ行きクオッカを見たり、海を楽しんだりしました。特に景

色は本当に綺麗で感動しました。

このように私はオーストラリアを楽しみ、多くの経験が出来ました。そして自分の目標の視野を広げることもできたと思います。

オーストラリアは日本とは本当に異なる地域で気候、文化、人柄など大きな違いがあると思います。そんな中自分は2つのことを考えました。

まず、日本とオーストラリアにはそれぞれ違った良さがあるということです。当たり前のことかもしれませんが私が私はこれをとっても実感したのです。

1番強く感じたのは食です。オーストラリアのオレンジ、牛肉、ベーコンは本当に美味しかったです。特にオレンジジュースは別格で日本でも通販で買おうか悩んだほどです。しかし、オーストラリアは独自の食が少なく身近ではありません。その点日本は和食が存在し、味噌汁をはじめ身近にあります。実際、私が帰国後1番に食べたいと思っ

たのは味噌汁でした。このほかにも違いを感じたことは多くあり、オーストラリアの良さを感じたとともに日本の良さも再発見できました。

2つ目は人柄です。オーストラリアでは1人1人が本当にお互いをリスペクトしていると感じました。この点は私自身、真似していきたい点であり、もっと様々な人とこの考え方を共有していきたいと思います。

最後になります但し今回、このような素晴らしい経験が出来たのは家族や教育委員会の皆様をはじめとした多くの皆様のおかげだと思っています。本当にありがとうございます。





「研修を終えて」

岩見沢緑陵高等学校1年 水口 優衣

少年ジェットに応募したのは、海外に行くことに対する憧れと、何か大きな刺激を得るためでした。今まで自信を持って言えるような挑戦をした事が無かったので、このような大きな企画に参加すること、そこでの研修を通して新しいことを吸収したいなという思いから応募することを決めました。

合格通知を頂いてからもあまり実感はありませんでしたが、事前研修で英語を学んだり、派遣団員の仲間と交流を深めていくにつれて段々と実感が湧いていきました。そして、私は今まで「北海道」という自分自身の生まれ育った場所を離れた事がなく、飛行機に乗ることも、経由地の東京へ行くことも全てが初めての経験でした。少し不安もありましたが、楽しみな気持ちの方が大きかったです。

出発の日。無事に東京に着いて、夜にオーストラリアのメルボルンへ渡豪しました。約10時間のフライトが終わり、現地に着いた時には翌日の朝になっていました。到

着してからは通りすぎるほどの人の人が外国人なこと、看板が英語で記されていることなど些細な事を発見する度に「海外へ来たんだ」という実感が湧いていきました。

そして、私がこの研修で一番苦労したのが入国審査でした。入国審査カードの記入にミスがあり、誤解を与えてしまつて厳重な検査を受けました。オーストラリアの入国審査官は勿論、日本語が通じないので誤解を解くのがとても大変でした。思っていたよりも英語は早口で、焦りもあり全然聞き取れず、入国できないのではないかと不安でした。何とか通過できましたが、その時は安心感よりも自分の英語のリスニング力・コミュニケーション力の低さに落ち込み、これからのホームステイと研修がとても心配でした。

その後は、昼にパースへ到着し、現地ガイドのリンダと合流した後、コテスロー・ビーチへ行きました。着いた時、海が透き通るほど綺麗でとても感動し、沈んでいた気持ちも少し明るくなり

ました。夕方に夕日が見える場所ではなんとピクニックをした景色は今でも鮮明に覚えています。言葉では言い表せないほど素敵な時間でした。

翌日、現地について2日目からホームステイが始まりました。入国してから色々なトラブルが重なり、私は少し落ち込み気味で不安な気持ちがありました。ですが、ホストファミリーが迎えに来てくれた時、優しく笑顔で迎え入れてくれたのでとても安心しました。

家は海見える街にありました。荷物を置いてすぐに、ホストマザーとシスター



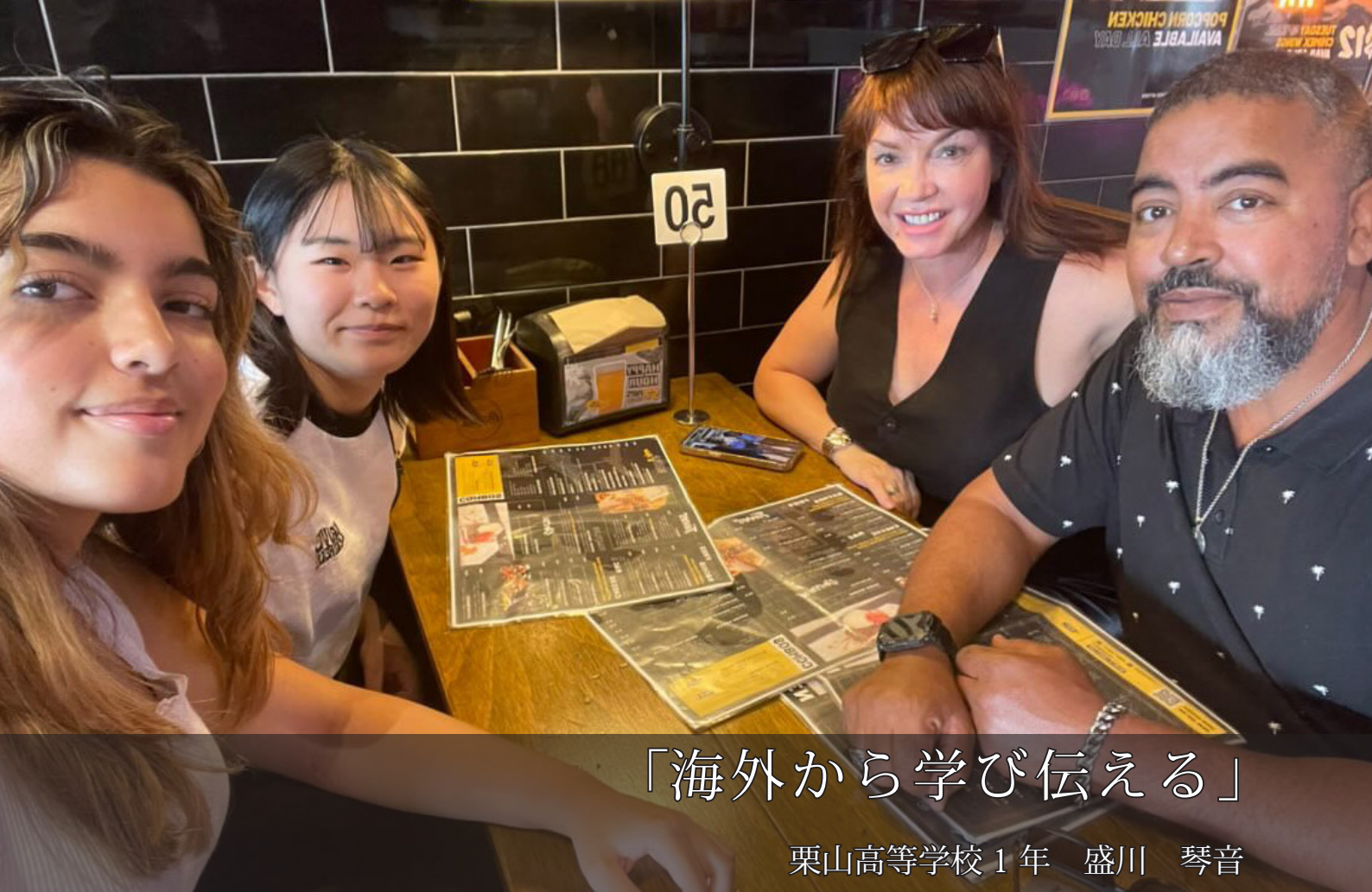
3日目からは本格的な研修が始まりました。家族と休日を過ごした時の会話では聞き手になることが多く、自分の事をあまり話せていないなと感じました。なのでその日からは少しでも自分の事を知って貰おうという思いで英会話に挑戦しました。

ピクニックでは自分の家族はもちろん、他の家族も沢

東京につき案内掲示板が日本語で本当に安心しました。北海道に着いた時は寒さに驚きました。解散式では母に手紙を渡しました。そして、この研修を通してより家族の大切さと優しさを実感しました。

沢山の人に支えて頂いて最後までやり遂げる事ができました。引率のお二人や団員の皆さんをはじめ、関わってくださった全ての人へ感謝の気持ちを忘れず、ここで学んだことを大切にこれから成長し続けていきます。





「海外から学び伝える」

栗山高等学校 1年 盛川 琴音

小さい時から「海外に行ってみよう」という気持ちと「海外ってどんなところだろう」という好奇心がありました。しかし、英語を話すことに自信があるわけでもなく、海外は怖いという印象を持っていました。そのため、実際に行ってみようと思っていました。その中で、少年ジェットを知り、初めての海外に挑戦することになりました。しかし不安もありました。

私は、栗山高校女子硬式野球部に所属しており、栗山町外の人間として、みんなと仲良くできるか、とても心配でした。しかし研修を重ねるたびにみんなとたくさんお話をしたり、意外な共通点があったりと今思えばたくさんコミュニケーションを取っていたなと実感しています。

海外に行くにあたって、私は、「積極的にコミュニケーションを取る」ということを個人目標として、研修に取り組んでいました。団長になった時から、はっきりとした人になるうと思いましたが、研修の中でも一番つまづいたのは、宿泊研修です。

眠さも相まって、喋ることを放棄し、進めることに一切手を付けず、人任せにしてしまいました。宿泊研修を終えて、団長としていかなものかと自分自分のことを責めたこともありました。後日、団旗を制作するときに「Be Ambitious!」というスローガンを掲げ、本研修までみんなで切磋琢磨して頑張ってきました。こんなにも頼りない団長の私をサポートしてくれたみんなには感謝しかありません。

私が海外に行って感じたことは、物事に対して、はっきりした返事をする大切さを学びました。もちろん、オーストラリアは英語で会話をするため、「Yes」か「No」だけでも自分のわかる範囲で言葉を発する。それこそ、





積極性だと思っています。

また、パースで感じたことは、日本とは違った湿気の少ない温かさでとても過ごしやすい環境でした。パースでは、ホストファミリーの方と会ってから、冒険が始まりました。本当に全く日本語の伝わらない4日間を過ごしました。

ステーキを食べに行ったり、ホストシスターとゲームをしたことが印象的です。そのほかに、自分でトッピングができる

アイス屋さんにも行きました。

また、団員のホストシスターやホストブラザーと観光をし、どんなものが好きか、どんなものが欲しいかなどたくさんコミュニケーションを取り、お土産などを買うことができました。特に印象的なのは、「カバシャムワイルドライフパーク」に行ったことです。日本では見られない動物がたくさんいました。カンガルーやコアラ、クオッカなど可愛い動物がたくさんいました。

しかし、本研修において後悔したことがあります。それは、写真を撮たくさん撮ればよかったという後悔と英語の知識がもっとあればよかったなと思います。なかなかコミュニケーションが続かずに、翻訳機に頼るということが多かったため、直接コミュニケーションを取れるのもっと楽しかったと思います。

日本に帰って来てから、印象が明るくなったと感じます。また、団員のみんなともコミュニケーションが以前よりもたくさん取れるようになったと感じます。事前研修では、ぱっとせず

にもじもじしてたように感じますが、今は「団長です」と胸を張って言える気がします。

今回の研修を踏まえて、日本人が持つ海外の印象やオーストラリアのアボリジニという独自の文化を日本の皆さんにも知ってもらいたいと思いました。今後も英語を忘れずに、ホストファミリーと定期的に連絡を取って行きたいと思っています。

来年の団員の皆さんに伝えたいことは、英語は喋れなくてもどうにかありますが、耳を慣らすことや単語をたくさん知ることとで、たくさんコミュニケーションを取ることができると、英語の説明もたくさん理解できるため、より良い研修になると思います。まさに、「やらない後悔よりやって後悔」という言葉が当てはまります。偏見など持たず真っ白な状態で行くのがベストだと思います。皆さんの研修がより良い研修となりますよう願います。

また、今回の団員の皆さんと竹内さん、佐藤さん含め関係者の皆様ありがとうございました。





「異文化に触れて」

栗山中学校2年 腰本 穂依

私は、「英語を活かした仕事に就くために英語を学びたい」、「日本では学べないことを学びたい」という2つの理由があり、今回の少年ジェットに応募しました。

暖かいが、朝晩は冷え込むことがある」、「オーストラリアの英語はなまりがある」などと、たくさんの方がわかっていました。

まさか合格すると思ってなかった私は合格通知が届いたとき、とてもうれしい気持ちになりました。

出発式当日、私は海外に行く実感が全く湧きませんでした。それと同時に、せっかく海外研修に行く機会をもらえたので日本で待っている家族の分まで勉強して楽しんで来ようと強く思いました。

団員で決めた目標の中に入っていた「ポジティブ」という言葉を大切に、「積極的に行動する」、「現地では学べないことをたくさん学んでくる」この2つの目標を掲げて事前研修、本研修に参加しました。

メルボルンで飛行機から降りた瞬間から、北海道の夏と比べものにならないほど暑く、長袖を着ていた私はとても汗をかいていました。外に出てみても日本では見られないようなオブジェや植物がたくさんありました。また、オーストラリアは日本と違い、市街地など身近な場所に自然があり、とてもフレンドリーな人が多く、とても良い国だと感じました。

事前研修では、英語レッスン、宿泊研修を通して団員との共通の趣味などを見つけてたくさん話したことで、みんなとたくさん話することができるようになっていきました。

私は、日本と違うことはたくさんあるだろうと思い、オーストラリアに行くまでにオーストラリアの気候、言語、食べ物など、たくさん調べました。調べてみると「昼間は比較的

とてもきれいだっただけでとても印象的でした。

私は、日本と違うことはたくさんあるだろうと思い、オーストラリアに行くまでにオーストラリアの気候、言語、食べ物など、たくさん調べました。調べてみると「昼間は比較的

とてもきれいだっただけでとても印象的でした。

パースに来て2日目、いよいよホストファミリーと対面する日。私はこのとき、ホストファミリーに会えるという楽しみな気持ちと、ホストファミリーに伝えたいことを伝えられるかという不安な気持ちが混ざり合っていました。

ホストファミリーが英語をゆっくり話してくれたので、私はとても安心しました。その日、私達がまず行った場所はスーパードでした。日本のスーパードとは違い、とても大きく、いろいろな物が売っていました。

一旦ホストファミリーの家に戻り夕方頃、海に行つてボートに乗りました。ボートでイルカの見られる場所

とてもきれいだっただけでとても印象的でした。

パースに着いた初日に行つたコテスロー・ビーチでは、夕食に食べたフィッシュ&チップスがとても美味しかったことと、夕日が

とてもきれいだっただけでとても印象的でした。

パースに来て2日目、いよいよホストファミリーと対面する日。私はこのとき、ホストファミリーに会えるという楽しみな気持ちと、ホストファミリーに伝えたいことを伝えられるかという不安な気持ちが混ざり合っていました。



に連れて行ってくれました。そこではイルカを見ることができました。実際に見たことがなかったのでもわくわくしました。

夕食後、ホストシスターとゲームをして遊びました。日本でも遊ばれている「UNO」や遊んだことのない「avocado」など、たくさんのゲームをして遊びました。

パースに来て3日目、この日はスタディセンターで英語レッスンをし、午後からはフリーマントルを探しました。

英語レッスンでは現地ガイドの方からオーストラリアで使われる英語のなまりや発音練習など、たくさんのためになることを教えていただきました。午後からは、フリーマントルの散策では、歩きながら日本とは違うオーストラリアの街並みなどを見て、とてもうれしかったです。

パースに来て4日目、この日はみんなのホストファミリーの子どもたちと一緒に動物園やチョコレートファクトリーに行きました。

動物園では、アニマルショーを見たあと動物たちと写真を撮ったりカンガルーの餌やりをしたりしました。なかなか餌を食べてもらえなかったですが、何匹かに食べてもらえたので満足しました。日本で見られないようなコアラ、カンガルーなどの動物を見ることができて良かったです。

チョコレートファクトリーでは、チョコレートだけでなく、アイスクリームやパスタ、ジャムなども売っていました。

パースに来て5日目、この日はパースミントやキングスパークに行きました。パースミントでは、金の延べ棒づくりの実演を見たり金のことについて学びました。日本で金は身近なものではなかったため、良い体験ができました。

キングスパークでは、アボリジニ文化などを教えていただきました。アボリジニについて学校で少し学びましたが、詳しいことは教えてもらってなかったのととてもためになりました。

この日はみんなのホストファミリーが集まって夕食会をしました。夕食のあとみんなでバレーボールをしたことがとても楽しかったです。

パースに来て6日目、この日はホストファミリーとお別れしてロットネスト島に行きました。島ではいろいろなビーチを回りました。

ロットネスト島にはクオッカがいてとてもかわいかったです。また、私は海で泳いだことがなかったので泳げて良かったです。

パースに来て7日目、いよいよ帰国する日が近づいてきました。この日は、パース空港からシドニー空港へ行き、羽田行の飛行機に乗りました。空港内でもたくさんさんのことをしましたが、ホストファミリーからももらった大量のグミを食べるのに精一杯でした。

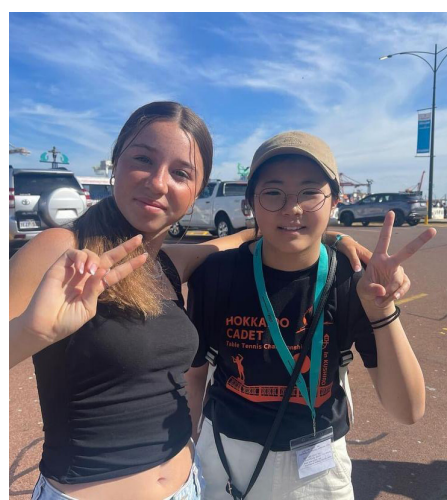
そして栗山町に帰ってきた日、成長した姿を家族に見せることができて良かったです。ただ、私はホストファミリーと話すことに必死でホストファミリーに

ついてあまり質問ができなかったと思います。もし、次このような機会をいただくときはホストファミリーについてもっと知れるようにしていきたいです。また、私は栗山町に帰って来てからあまり話さなかった人と話せるようになりました。

この研修で学んだことは日常生活に活かしていきたいです。

私のことを支えてくれた家族、教育委員会みなさん、そしてこの研修に関わってくれた方々がいたおかげで今の私があると思っています。本当にありがとうございます。

オーストラリアでの研修を通してコミュニケーション能力が上がったのではないかと思います。私は、「やってみたい」と思ったことは挑戦するようにしています。その結果、今回のような研修に参加できました。みなさんも「やってみよう」と思ったことに一度挑戦してみてください。そうすると良い結果が待っていると思います。





「たくさんの思い出」

栗山中学校2年 塚本 紗雪

私は少年ジェットに参加し、オーストラリアでたくさんさんのことを学んできました。まず、私がこの少年ジェットに申し込んだのは、昨年親に勧められたことがきっかけでした。申し込んだ理由は、この研修を通して、英語スキルの向上と、自分自身を成長させたかったからです。

事前研修について。事前研修ではALTのテッサ先生、ハナ先生がレッスンをしてくれて、現地で使える英会話のレッスンや、ミニゲームをして、楽しく英語やオーストラリアについて学ぶことができました。また、宿泊研修や団旗制作もありました。しかし、本研修直前まで、あまり深く仲良くなることができずとても不安でした。

いざ本研修。新千歳空港に着くとみんなと自然に仲良くなれて気軽に話せるようになり、とても安心しました。こうして、9日間のオーストラリア研修が始まりました。

1日目はほぼ飛行機での

移動でした。私は初日から飛行機の中で、「充電器を貸してくれませんか？」と英語で声を掛けられ、最初は聞き取れなかったのですが、「borrow」や「charger」という単語を聞き取り理解ができ、充電器を貸すことができました。

2日目。いよいよオーストラリアに入り、入国審査がありました。その際、また英語で声を掛けられ「モバイルバッテリーを貸してくれませんか？」と言われました。その時も、全く聞き取れず、何かを貸して欲しいのは伝わったのですが、何を借りたいのかが分からず、自分の携帯を出し字を打ってもらいました。そして「powerbank」と言っていたことに気付き、モバイルバッテリーを貸しました。こうして、開始早々話しかけられる事が多く、そして人の役に立てた事が嬉しく、とてもワクワクしていました。

1週間のパースでの研修では、オーストラリアの方言や英語の発音のレッス

ン、フリーマントルの周辺散策、色々な動物と触れ合えるカバシャムワイルドライフパーク、チョコレートファクトリー、世界一重く、大きく、価値のある金のコインを見たパースミント、ショッピング、アボリジニ体験ツアー、キングスパークでみんなとみんなのホストファミリー全員でピクニック、たくさんさんのビーチがあるロットネスト島、そしてホームステイ、とオーストラリアでしか出来ない経験をとくさんしました。

ホームステイでは、ホストマザー、ホストファザー、ホストシスター2人、そして犬2匹、猫2匹、蛇1匹のホストファミリーのお家で4日間を過ごしました。



対面した日から1日の休日
で少し不安もありましたが、
すぐに馴染む事ができまし
た。この日はオーストラリ
アの地理的なことについて
の○○の映画体験、ショッ
ピング、アイスクリーム屋
さんに連れて行ってしてくれ
ました。家に帰ってからは、
ホストシスターとプールに
入りました。その時、ホス
トマザーが、私の好きなグ
ループの曲を流してくれて、
それがとても思い出に残っ
ています。

その後は、ホストシスター

と犬の散歩にも行きました。
ホストファミリーはとても
優しく、ゆっくり喋ってく
れて、毎日絶対何かをして
くれました。室内ゴルフに
行ったり、B B Qをしたり、
アイスクリーム屋さんに行
ったりしました。そして、
毎日ホストシスターとマリ
オカートとスーパーマリオ
ブラザーズをしました。私
もよくやった事のあるゲー
ムと一緒に盛り上がりなが
ら出来てとても楽しかった
です。

このような、全てのかけ
がえのない時間が私の大切
な思い出になりました。

ホストファミリーとのお
別れの時は本当に別れるの
が悲しくて、泣くのを我慢
したのですが、少し泣きな
がらホストファミリー全員
とハグをしてお別れをし
ました。

昨年はホームステイが1
家庭に2人でしたが、今年
は1家庭1人でホームステ
イをする事が出来ました。
昨年は2人だったので、今
年も勝手にそうなると思っ
ていましたが、1人になる

と聞き、最初聞いた時は不
安がありました。しかしホー
ムステイが終わると、1人
でのホームステイで良かつ
たなど強く思いました。な
ぜなら、家では日本人が私
以外いないので、日本人に
は頼らずに自分の意思で自
分から行動できたからです。
たくさん喋る事が出来たし、
後悔なくホームステイを終
える事が出来ました。

そして、私が1番思い出
に残っているのは、ホーム
ステイはもちろんですが、
それ以外だとキングスパー
クでのピクニックがとても
印象的でした。エアボー
ルを持ってきてくれていた
子がいて、自然と15人ほど
が集まりみんなでボールの
パスを繋いで遊びました。
私もそこで一緒に遊んでい
たのですが、そのゲーム中
ふと客観的に見た時にとて
も素敵な時間だなと思い、
個人的にとても思い出深い
時間です。

オーストラリアでは、優
しくてフレンドリーな方が
多いこと、色々な国の系統
の人がいて多様性があるこ

と、街中でもどこに行つて
も木などの緑が多いこと、
日本とは違ったオーストラ
リアの気候、オーストラリ
アでしか見れない動物、オー
ストラリアの方言、などの
とてもたくさんのことを学
んできました。

日本に帰ってきてから変
わったと感じたことは、圧
倒的に英語力です。行く前
よりも聞き取れるようにな
ったと感じたし、自信を
持って英語を喋れるようにな
りました。そして、また
海外に行きたいと思うよう
になりました。

また今回の研修で自分の
参加した理由でもあり目標
でもあった、英語スキルの
向上と自分自身が成長をし
て帰ってくる事ができた
と思います。今回の経験は、
自分にとって良い意味で大
きく、将来の視野を広げる
事が出来たと思います。

引率の方も含めて今回の
このメンバーでパースに行
けた事がとても嬉しくて楽
しかったです。ありがとうございました。





「異文化での学び」

栗山中学校 1年 山本 美緒

私がこの少年ジェットに申し込んだ理由は、3つあります。

1つ目はずっと海外に興味を持っていて、日本とは違う文化を実際に感じてみたいと思っていたからです。

2つ目は英語力やコミュニケーション能力を上げたいと思っていて、色々な人と話し、積極的に話す力を身につけたいと思ったからです。

3つ目は海外へ行って、今のうちにたくさん経験をし、今後の自分の行動に活かしたいと思ったからです。

私がこの研修で立てた目標は、わからなくても諦めずに、英語でたくさんコミュニケーションを取り、積極的に行動することです。

私がオーストラリアに行くまでに準備したことは、英語の聞き取り・英単語の勉強と、オーストラリアやパースの気候や文化などについて調べたことです。私が事前研修で意識したことは、ポジティブに考えることと、積極的に行動することです。これは、これから自分の行動でも意識したいです。

また、仲間との目標は、「みんなルールを守り、ポジティブで仲の良いチームにする」です。私がパースで体験したことは、まず、オーストラリア独自の英語です。日本で言う方言のようなもので、私が1番気に入っているのは、「chocolate」を「chocky」と呼ぶことです。他にもたくさんあって、とても面白かったです。

次に、\$や¢などのお金のことです。現金で払うのは、コインもあったし、\$や¢を使い分けられないので、慣れなくて大変でした。でも、外国のお金を使う機会はほとんどないので、いい経験が出来てよかったです。そして、カードの便利さを改めて感じました。

次に、水の大切さです。普段何気なくたくさん使っている水は、どこでもたくさん使えるわけじゃなくて、砂漠が多く、降水量の少ないオーストラリアでは、なるべく節約して使わなければなりません。なので、水もすごく大切な資源だということを改めて感じ、これからは前よりも資源を大切にしようと思いました。そして、オーストラリアの文化なども体験できました。アボリジニ文化や、日本とは違うマナーなど、普段しないことを学べてとても嬉しかったです。

私がパースで最初に感じたことは、みんな優しく、面白いことです。特に、キングス・パークでのみんなとみんなのホストファミリーとのピクニックでは、色々な人と交流して、色々





な食べ物食べて、とても楽しい時間でした。英語がわからないときは、ジェスチャーでも意外と伝わったので、嬉しかったです。また、カバシャムワイルドライフパークでは、日本では見れない動物をたくさん見れたし、カンガルーに触れたり、餌をあげたりすることが出来て、とても貴重な体験をすることができました。すごく楽しかったです。また、ロットネスト島では、たくさん的大海を見て、とても綺麗だったし、他の場所も自然に包まれていて、とても綺麗でした。また、オーストラリアにも日本のお寿

司やお菓子などがいくつかあって、日本も世界的に有名なんだなと思いました。オーストラリアの食べた事のない料理は、少し不安だったけれど、とても美味しかったです。

そして、ホームステイしてから、ホームステイでは1家庭に1人になれてすごく良かったと思いました。2人だと、2人でずっと日本語で話してしまいそうだったので、1人のほうがコミュニケーションを取れた気がして、本当に良かったです。そのおかげで、部屋に籠もることなく、ホストファミリーと英語でたくさんコミュニケーションを取ることができました。

この研修で成功したと思うことは、たくさん英語でコミュニケーションを取れたことです。でも、翻訳を使わないで会話をしてみようとしたら、緊張してしまい、文法を間違え、上手く伝えられなかったのが悔しかったです。でも、この挑戦と失敗をして、もっと英語を話せるようになりたい

という思いが強くなったので、挑戦して失敗することは、自分が成長するためにとっても大切なことなんだと、改めて実感しました。

研修から帰ってきて自分の変わったと思うところは、前よりも少し自信を持って話せるようになったことと、教育長の言葉もあり、何をするにも、自分の為だと、前向きに楽しく物事に取り組もうと思えるようになったことです。

この研修へ行って、今後は、世界の異文化についてもっと知りたいと思いました。また、英語をもっとできるようになって、機会があれば、またオーストラリアへ行きたいと思いました。そして、積極的に行動し、今のうちにたくさん失敗して、色々な経験を積んでいきたいと思いました。

今後、少年ジェットに参加したいと考えてる人へ伝えたいことは、オーストラリアでは、自分が思っているよりも英語でコミュニケーションは取れるので、思い切ってたくさん話した

方がいいことと、空港での入国審査などが大変だったので、しっかり準備してほしいことです。そして、少しでもたくさんのことを学び、話せるように、しっかりと英語の勉強をしたほうが悔いのない研修になると思います。

最後に、私がこの研修に行くにあたって、1番近くで見守り、手助けしてくれた家族、安全に研修を終えられるよう、私達を指導してくれた教育委員会の方々、温かく私達を受け入れてくれたホストファミリーのみなさん、この研修をたくさん楽しませてくれた現地ガイドのリンダ、準備や案内をしてくれたISAの方々、そして、いつでも助け合い、優しくしてくれた団員のみなさんには本当に感謝しています。

この経験を活かし、自分の夢に向かって前向きに、自分らしく頑張ります。このような機会を頂き、本当にありがとうございました。



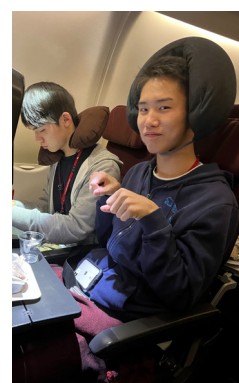
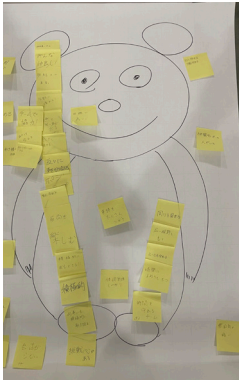


Photo Album



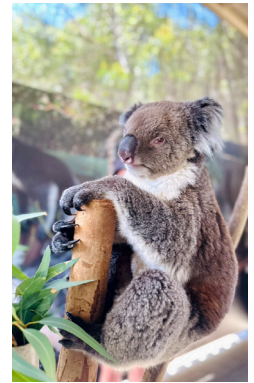
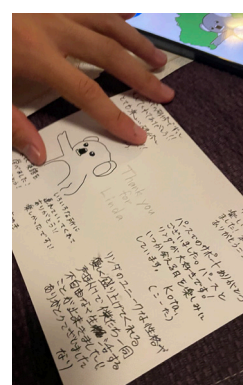


Photo Album





少年ジェット「希望の翼」 (@syounen_jet2023)

Instagram photos and videos

 Instagram /



令和6年3月発行
発行／栗山町教育委員会・少年ジェット「希望の翼」実行委員会
〒069-1513 北海道夕張郡栗山町朝日4丁目9番地3 6
TEL0123-72-1117／FAX0123-72-6522